

会 議 録 (概要版)

会 議 の 名 称	第4回 学校規模学校配置適正化検討委員会
開 催 日 時	平成23年2月10日(木) 13時33分～16時07分
開 催 場 所	小川総合支所 大会議室
出 席 者	<p>【出席委員】 水本徳明 山口良元 中川稔 小林義治 星野広幸 福田智彦 西村浩一 小仁所浩 立原幸子 鈴木美樹 邊見亜津子 中島浄 飯島利武</p> <p>【欠席委員】 野村武勝 中村強 矢口忠衛 沼田マサ 竹内昌信 新谷宣江</p> <p>【視察校代表】 安島校長 菊地校長 石川校長 藤田教諭</p> <p>【教育委員】 澤島照子 中村三喜 沼田新 本田仁子 鶴町庄二 沼田和美</p> <p>【事務局】 小松修也 石島光夫 樽見博文 海老澤光志 久保田一江 菅谷清美</p>
協 議 案 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の校務分掌について ・ 野田小学校コミュニティ・スクール実践研究について ・ 学校視察を踏まえての意見交換
会 議 資 料	<p>別 紙</p> <p>(会議次第、学校規模から見た学校運営組織に係る成果と課題について、平成22年度コミュニティ・スクール研究発表実践報告、平成22年度学校評価年間計画、検討委員会での学校視察を踏まえてのアンケート調査について ほか参考資料)</p>
記 録 方 法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 (傍聴者 3 人)

協議の内容（協議経過・結論等）

【協議】

- (1) 学校の校務分掌について
- (2) 野田小学校コミュニティ・スクール実践研究について
- (3) 学校視察をふまえての意見交換

協議1 学校の校務分掌について事務局より説明する。

学校では授業をするだけではなく、時間割・施設備品の管理・PTAの組織・外部との渉外、などを行っている。＝校務

先生方は校務に対して様々な役割分担をしている。＝分掌

※ 校務というのは適切な学校の教育活動を実施していくために必要な業務の分担。

委員 学校の校務分掌の説明はよく分かったが、検討委員会に何を協議してもらおうとしているのか。

委員長 とにかく学校のことをまずご理解いただきたい。学校の規模によって校務分掌の負担のあり様が違う。そのことを理解していただきたいというつもりで今日はこの報告を入れた。

協議2 コミュニティ・スクールについて事務局から説明。

野田小学校から、実践研究についてプロジェクターにより説明。

委員 コミュニティスクール推進委員会の中の教育後援会はどういったものか。

学校 地域の方々に学校の環境を整えるための協力をいただいている。もともと各地区の区長さんがつくっていたものを受けて、地区の区長さんたちが組織して学校のためにいろいろ活動してくれていたが、それに代わるものとして昭和52年から活動している。賛同してくださっている保護者の方から集めたものだけでなく、地域の方からも賛同していただける方から会費をいただいてそれをもとに運営している。

委員 コミュニティスクールとして地域の方々に協力をいただくことについて、時間のとり方とか会議の持ち方はどういうふうに行っているのか。2年間において実施した結果、子どもの面でどういう変わり方が見られたか、についてお伺いできたらありがたい。

学校 まず一点目、学校長が野田のコミュニティの役員に入っている。教職員も4つある部会の中に名を連ねている。土・日での活動も増えるので、強制ではなくお互いできることを協力し合っている。考え方にもよりけりだが、地域の方々との部分を

やった上で、他の部分で簡素化できる、軽減できる部分を工夫していくことが大事。長い目で見て、お互いにいい関係を作っていけると最終的に負担にはなくなる。二点目で、まず学力の面では保護者に入ってもらうことは日常的ではない。年何回か学校で計画を立てて、ここは親とやってみようかというようなことで実施している。全体的に県の学力診断テストだと県平均の若干上という形で、何年か前に比べると少しずつ向上の傾向にある。

委員 私の地区でも野田に見習って作ろうという考えがあったが、ある区長さんから協力が得られない、ということで進まなかったようだ。市として、区長を通して推進していくことは考えているか。

教育長 市としての考え方ですが、コミュニティを小学校区エリアを中心に全市的につくっていきたいという考え方で、地域振興課を中心に今コミュニティの組織作りを行政が呼びかけをしながら、地域の皆さんに組織化を促している状況。地域のみなさん方の連携については当然まちづくりに関わってくることなので、地域としては一つのまとまりを生む意味で、行政としてはコミュニティをつくっていきたい。今後先行して地域にコミュニティをつくる。コミュニティスクールと如何につなげていくか、認定していくかについては野田小の事例を十分検証していきながら今後他の地域で可能かどうか、教育の機関としては考えていかななくてはいけない。むしろ行政の市のほうが先行してコミュニティの組織化を図っているのが現状。

委員 コミュニティスクールの取り組みについて、理想的な小学校の関わりが見えた気がした。この取り組みについてはどういう形で始まったのか。

事務局 コミュニティスクール立ち上げのきっかけは、文部科学省がまず茨城県に打診をし、県の教育委員会から市教育委員会へ打診があった。野田の場合はすでにコミュニティが立ち上がっていたので、それを活用して地域の教育力を学校の中に取り込めないかということで学校長に相談をした。地域の方も協力をしてくれるということと、校長もぜひと合意形成がなされた中で手続きが進んできた。コミュニティスクールについては法的に規則を整理しなければならない。野田小学校が達成化を検証する中で市としての方向性を定めて、条件整備をこれから進めると考えているところ。今年で指定は外れるが来年度も学校独自で進めていく。

協議3 学校視察を踏まえての意見交換について、事務局からアンケートの報告と説明。

委員長 アンケートに答えていただき、ありがとうございました。先ほど事務局から話があったように、確かにアンケートに答えることによって今後の方向性が導き出されてしまうのではという気持ちも理解できるので、そういう方が回答を控えられたというのも、意味のあることだと思うので、それはそれとして受け止めたい。

委員 視察とは関係ないが、直接的に早急に結論を出すべきではないと思っているが、この検討委員会はあと何回くらい持たれる予定なのか。

事務局 今回の一連の流れについては、まず基本方針をまとめていただくまでの、直接的な協議に入る前に知識・情報を習得していただく段階。最終的な基本方針を取りまとめ、実施計画を具体的に策定するのは、平成23年度いっぱい両方を取りまとめていただくという目安はある。平成23年度前半を目途に基本方針をとりまとめていただいて、しっかり抑えていただく。そのうえで、残り後半で具体的な方法、実施計画をまとめていただければという考え方でいる。

委員 アンケートに、小規模校の場合は人間関係で固定化してしまう、とあった。小さい学校の保護者から見ると、大きな学校の中で子どもたちの人間関係上の問題はどうか対応されているのか。

学校 中学校なので、いろいろな人間関係でのぶつかり合いはあると思う。大人数の中で、それが自分たちの中で浄化されていく、二つに分かれたとしても次に仲間として関わる人間が出てくるのかなと思う。決定的に駄目だという場合に、クラス編成の中で多様な編成ができるという面はある。

学校 一人の子を見る時に、担任以外のTTや、校長や生徒指導も、校内を巡視しながら多くの目で見ている。一人の先生が判断するのではなく、例えば、泣いていた場合、なぜ泣いていたか。いじめがあった場合、いじめたほうはなぜいじめたかというようなところを、いろいろな情報を集めてくることでその子の原因を、事件が起こった原因を判断できるかなということを意識しながら子どもを見ているというのが、多い人数のいいところ。加配が学校にはあるが、人数を多く配置されることによって、多くの子どもを小さい学校と同じように十分に見られるようになる。

委員 視察に行かせていただいて、小さい学校、大きい学校に関してはやはりメリット・デメリットあるのが分かった。野田のコミュニティの立ち上げの時に、学校の保護者ということで入らせていただいて、一緒に立ち上げのお手伝いをさせていただいた。他の地区の異年齢の方と話ができ、意見交換ができたというのは自分にとって財産になった。まだ立ち上がっていない他の地区の区長さんには、子どもたちがメインの活動ということで考えて立ち上げてもらえれば、私はすんなり立ち上がると思う。コミュニティ活動で、年の大きい人たちとコミュニケーションがとれるようになるし、実際役員は大変だがそれ以上のメリットがあるので、他の地区でもやっていただけるといい。

委員 小規模校も大規模校も見させていただいて、どちらも良い所も悪いところもあったが、親としては良いところ取りをしたいと思った。小さいところを見れば小さいところに行かせたいと思うし、大きいところを見れば大きいところで学ばせたい、そう思うのが親としての率直な意見。

委員 先ほど美野里中で、人間関係においてクラスが多いと分けたりできるとあった

が、逆に小さい学校で、1クラスしかないという学校はどうされているのか。

学校 地域も巻き込んで小さい頃からの人間関係は、それを覆すということは、なかなか厳しい。さっき、大規模校でいろいろな先生が見ているという話があったが、うちは逆に全職員が子どもたちを全部知っている。みんなで見ている、担任ではなくいろんな先生が関わることで多少なりとも緩和はできる。構成的グループエンカウンターという手法をどんどん取り入れて学活でやったりと、なんとか良い方向を向ける努力はしている。また、人と臆することなく関われるというのは、最後は子どもの力。そこを導き出せるような力が我々にあれば、小さくても大きくても同じと思うところがある。校務分掌ではないけれど、職員は1人で4つも5つも担当があるがやりがいがある。それは子どもたちも一緒なのだろうと思う。それがいいかどうかはまだ分からないが、それを良い面として捉えたい。

校長 適正ということに私はこだわってしまうが、それぞれの良さがあるので、良い所をいかに活かしていくかが大事じゃないかなと思う。

委員 玉里中学校では、担任の先生が本当に有難いと言うくらい関わってくれていて、小規模だからどうということはない。人間関係は担任の先生や周りの友達とかで解決していけると思う。

委員 アンケートの中に、親としての資質に欠ける親が多い、親の教育も必要とある。親の教育というのはどのような考えを持っているか、質が欠ける親については教育委員会で何か考えていることがあれば聞かせてほしい。

校長 子どもに置き換えると、玉里中学校は人間関係を築くのが上手ではない親の子が不登校になる率が多いかなと思う。

教育長 親の問題は社会全体のことで、小美玉市の、特定の学校という訳ではないので難しい問題。例えば家庭と地域と学校の連携を図っていこうという中で、親自身も地域を意識すればある意味で変わらざるを得ないのではないか。そういう意味でコミュニティだとか、学校地域支援推進本部といったところに教育委員会としては力点をおいて、親のある意味で問題のある方についてはそういう中で変わっていただければいいなど。そう言う意味ではコミュニティスクールが挙げられる。地域の全体の中で、保護者の皆さんもその中で関わることによって、ある意味で個人的あるいは親としての資質に欠けるような部分を自己反省しながら、あるいは補いながら対応できればいいと考える。

委員 今後の予定としてこの間訪問した小中学校以外に訪問する予定はあるか。

事務局 この件については次回の第5回検討委員会の部分と関係してくる。今回のアンケートで、今後の運営について皆様方からご意見をいただいている。こういったものを含めて、今後の検討委員会のあり方、学校視察等も含めてどう検討委員会を進めていったらいいかということについて、次回の中で検討させていただきたい。

委員長 次回の予定について、最終的にはこの委員会として学校の規模をどうするか、

配置をどうするかということについて、まず基本方針を出さなければいけない。ただそこに至るまでどういう手順でやっていくか。今の段階でどういう規模がいいのか、どこに学校を置くのがいいですかと言われても困ると思うので、そこに至るまでにどういうことをやっていくのか、どういう手順を進めていくかというようなことを次回ご相談したいと思っている。

委員 この検討委員会に大事な部分は、市の教育予算というのが非常に大事な部分なのかと感じる。基本的には予算があって学校の運営なり授業というのは進めていけると思う。今後の教育予算的な部分とか、市の財政的な部分とか、その辺も大きな適正規模を考えていく中ではあるのかなと感じる。ある程度の概要的なものも委員さん方には必要なのではと感じるので、事務局のほうで何か提案することができたらと思う。

委員長 次回になるかそれ以降になるか分からないが、事務局と相談して財政問題、財政状況についてできる範囲で検討できればしていきたいと思う。これからの学校のあり方を考える会議、将来長く影響を及ぼす大事な会議なので、ぜひご協力をいただきたい。

【次回の予定】

第5回 学校規模学校配置適正化検討委員会

開催日 平成23年2月22日（火）